

# 「夢」と「収穫」

2023年10月20日

太田隆次

## 1. 私は少年時代、野菜を種から育てたことがあります。（今でいう家庭菜園です）

戦時中、我が家でも小さな庭のそのまた一部を私専用の畑として、見よう見真似で、野菜の種を貰ったり、水をやったり、肥料をやったり、雑草を抜いたりして、出来栄はともかく何とか育て、収穫の喜びを実感しました。



はじめは初心者にもやさしい「杓子菜」（しゃくしな）からスタートし、そのうち欲が出て「ほうれん草」に挑戦しましたが全滅でした。知り合いの農家に尋ねると、「ほうれん草」は、酸性の土地には育たない、アルカリ性の灰などをよく混ぜないと育たないことが分かりました。かぼちゃにも挑戦して、芽も出て育ってきたのを引き抜いて広い場所に植え替えたら一夜で全部枯れてしまいました。実のなる野菜を途中で植え替えるのはタブーと後から知りました。

でも失敗や苦労の後は、量はともかく「**収穫**」の喜びがあり、収穫を夢見て野菜を育てる喜びを味わえたことはその後の人生にも役立ったと思います。

## 2. アメリカに住んでいた頃、ご存じハローウィン（収穫祭）を経験しました。

昨日もアメリカの野球メジャーリーグを見ていたら、センター席に、かの化け物サイズのかぼちやだけではなく他の野菜なども所狭しと飾ってありました。



その横に「LOCKHEED MARTIN」(ロッキード マーチン社)とかつての敵機の広告が目障りでした。

ヨーロッパやアメリカには、先祖がケルト族の人たちが多いのでその慣習に従って、1年を二回に分け後半の最終日の10月31日に、神も下界に降りてきて人間と共に「収穫祭」を仮装して祝う日であることはご存じの通りです。その真似をして、日本の渋谷などで仮装して騒ぐのは恥ずかしいことです。

## 蛇足

「夢」という漢字は、ズバリ「ぼうっと、かすんでいる」ことでこれが「夢」の正体を表しているそうです。

付け加えると大漢字辞典(学習研究社)によると、夢の字の上半分は羊のただれた目、下半分は夕方の闇で覆われて物がよく見えないことをあらわし、「見えている積りでも、実は見えていない状態」が「夢」の正体とあります。「正体がかすんでいる」と、なるほどと納得しました。

終わり